

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成25年8月(2013年) No.572

今年も全作品ハイビジョンの新作で 第53回OMCフェスティバル出品作決まる

今年10月6日(日曜)午後1時より開催される恒例のOMCフェスティバルも、回を数えて53回目となります。このほど行われた幹事会でプログラム編成会議が行われ、次の作品が上映されることになりました。

今年も昨年同様、全作品ハイビジョン新作揃いで、観客の皆様にも十分に期待に沿えるものと思っております。会員諸氏の観客動員に期待しています。なお10月20日に行われる大阪アマチュア映像祭にもOMCから出品する必要がありますので、一部の方には大阪アマチュア映像祭の方で出品して頂きます。

■第53回OMC映像フェスティバルプログラム

①和歌山城 6分渡辺雄史、②千本釈迦堂 5分宮崎紀代子、③郡上八幡 13分紙本 勝、④ピクトリア滝 8分井上勝彦、⑤居合道に生きて 15分前田茂夫、⑥夏の宵宮 9分江村一郎、⑦宇出津のあばれ祭 14分河合現七郎、⑧滅びゆくもの 9分関 剛、(休憩)⑨ダージリン 11分山本正夢、⑩飲めやはす酒 8分森口吉正、⑪大井川鉄道 7分上田吉巳、⑫湖北の冬鳥たち 10分進藤信男、⑬春の中山道 8分吉岡貞夫、⑭祈りの山 8分高瀬辰雄、⑮絆で帰郷 13分有村 博、⑯最後の田んぼ 15分合原一夫 以上16作品。

●日時10月6日(日)12時30分開場13時上映、終了予定16時40分頃

●場所：大阪市立中央会館

■大阪アマチュア映像祭へOMCからの出品候補(決定は8月22日会議)

推薦候補作品①氷河 DV11分上総修一郎、②伊吹山花紀行 HDV8分森口吉正。全体の上映枠の中で余裕があれば補欠候補として③ピクトリアの滝 HDV14分華岡 汪、④ガンジスの祈り HDV10分山本正夢。以上候補。

8月例会のお知らせ

8月例会は第4土曜24日午後6時より、いつもの難波市民学習センター(JR難波OCATビル4階)にて開催します。暑い盛りですが、会場は冷房が効いていますので、何か上に羽織るものをお持ちの方がよいかと思います。皆様のお越しをお待ちしています。

第2回懐かしの8ミリ映画を 楽しむ会にぜひお越しを

9月16日(月・祝日)午後、難波市民学習センター講堂で行われるこの催しは、往時の話題作、貴重な映像記録等、これからの映像づくりにもきっと参考になると思います。ふるってご参加下さい。

■予告：11月例会は祭日につき昼間例会カレンダーを見ると11月第4土曜は祝日で会場は夜間は貸出ししませんので昼間の例会となります。ご予約下さい。

撮影会作品コンは関剛作品が 最優秀賞に輝く

5月開催の撮影会には13名が参加しました。7月例会前の昼間行われた信楽撮影会公開コンテストには13名が出席。コンテストには何と参加13名中の12名が出品しました。皆さん忠実に作品にとり組んで来られたことに敬意を表します。

互選の結果は次の通りになりました。

- 最優秀賞 滅びゆくもの 8分45秒 関剛
- 優秀賞 狸の里・信楽 14分30秒 前田茂夫
- 秀作賞 百花の窯 10分30秒 高瀬辰雄
- 佳作 のぼり窯の里 14分57秒 進藤信男
- ・以下努力賞(順不同)、登り窯を訪ねて 12分02秒 宮崎紀代子、陶器の町信楽 13分43秒 有村博、燃やせ! 伝統の炎 11分30秒 森口吉正、陶芸の郷信楽 14分25秒 紙本勝、登り窯は今 10分11秒 河合源七郎、信楽焼 10分45秒 森田光春、信楽 6分55秒 江村一郎、なお、しがらき撮影旅行 江藤洋司作品はディスクでの上映が出来ず残念でした。

関作品は滅びゆく登り窯の現状を映像的に関氏らしい表現技法で表現、印象に残る作品でした。河合作品も同様に登り窯にしばっておられるのは成功していました。

■信楽撮影会作品コンテスト講評 会長 合原一夫

13名参加中12作品が出品されたということは、まさに驚きでありご熱心さの表れでご同慶の至りです。

どの作品も殆ど手抜きすることなく丁寧に作られていました。その中でやはり作品のねらいを絞られたものが評価が高かったように思いました。駅前で太鼓をたたいているシーンを多くの方が撮っておられましたが、この作品の狙いからすれば脇役ではない筈です。迫力があり動きがあって絵になりやすいのは判りますが、それとテーマの信楽焼とが結びつきません。

駅前の信楽焼売りのイベントに絞った作品をつくられるときは、生きてくると思いますが、窯元でのお話しの場面がありました。これも入れるなら言葉の中から必要なところを抜き出してうまく実景と組み合わせれば、それはそれでインタビューとして生きてきましょう。うまく使われていたのは有村、前田、紙本、高瀬、進藤、森田の各氏でした。インタビューはそのまま使うと、どうしても長くなるので、自分の作品の中に必要な部分のみ拾って使うようにしましょう。宮崎作品も少し使っておられるが、中途半端なのでやめた方がよいと思います。

河合作品は、登り窯に絞って過去と現在とを比較され、現状の問題点を指摘されていて主旨が一貫していて明確でした。

前田作品は前半は窯元の話や登り窯への火入れのシーン、窯出しのシーンなど前半の出来はよく出来ていますが、後半がらりと雰囲気が変わって陶器市、観光客、せり市、太鼓等賑やかで、前半の印象が吹き飛んでしまいました。折角の映像だから別々の作品を作られたら如何でしょうか。

関作品は、久しぶりに関流の映像派作品に接した思いで感心しました。唯、この題名では現地の人に観せられないなあと、思ったりします。滅びた窯の表現と、現在まだ活着している登り窯の作業風景とが交互に出てくるので、見る人は少しまごつくかもしれませんが、この辺りがいわゆる関映像というべきものでしょう。

全般的に気になったのは、あらかじめ映像をもらって、それを自作の中にとり組んでいる人は最初かラストに撮影協力○○○〇と入れておくのが礼儀だと思います。勿

論きちんと入れておった方もありますが、今後は気をつけましょう。

7月例会のレポート

今年の気象は異常な猛暑つづきの中で昼間は6月に行われた今年度の撮影会作品のコンテストに引き続いて午後6時より例会が開催された。外の猛暑と打って変わって冷房の効いた中で20名の出席者で作品はやや少ない10本だったが猛暑の中、作品づくりに励まれる熱意に感謝したい。最後にコンテストの最優秀作品が上映された。

今月の司会は進藤氏、上映担当は、井上、江村、河合の3氏、受付は宮崎、森下の両氏、書記は岡本氏で進行しました。

■出席者：有村、江藤、江村、岡本、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、高瀬、西村、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉岡の20名でした。

■上映作品(今月の講評は岡本世話役です)
作品はすべてBDです。

1. 絆で帰郷

有村 博 12分24秒

「私は、1928年8月にビルマで生まれ、今年で84歳になります」と作者の映像とともにアナウンスで作品がスタートします。OMCの会員仲間(井上、森田、山本)の3氏の勧めで、作者の生まれたビルマ(現在のミャンマー)を訪ねようとの話がまとまり、5月終わりから6月初めにかけて4人による12日間の旅が始まりました。

作者の父親は当時鹿児島のお住まいですが、勤務の関係でビルマに居住されていて作者はその地で生誕されました。4歳の時に父親が写された2枚の写真を頼りに旅が続きます。当時は軍政がしかれていたビルマのラングーンは民主化されてミャンマーのヤンゴンとなっています。外国語に堪能な仲間の努力があつて観光地を訪ねながらなんとか目的地にたどり着くことができました。当時居住されていた建物やお生まれになった産科病院もありました。お住まいになっていたお部屋に住んでいるご家族との

対面を果たした訪問者の笑顔でこの映像はエンディングです。おめでとうございます。記録に残る作品になりました。

2. 381系

江村 一郎 6分00秒

381系とは特急電車のスピードアップのために曲線区間をいかに速く走らせるかを念頭に国鉄が開発した日本最初の振り子式電車です。平成24年に紀勢線「くろしお号」から転用され、山陰線で運転を開始されました。クリーム色に赤色のラインで和知駅周辺の初夏ののどかな田園地帯を颯爽と走る381系をカメラにおさめられました。数年のうちに見納めになるようで記録になりました。

3. 冬の日余部

前田 茂夫 8分26秒

これまで幾度となく余部を訪れて撮り続けて作品にされている作者。昨年12月に訪ねられた作品です。降雪には恵まれなかったが、深い冠雪に包まれた白山寺のお地蔵さんや集落の冬景色が映し出されます。余部鉄橋はコンクリートにつくり替えられたために当時のような観光客の姿もなく、行き交う人も無口で疎らでまるで画面は墨絵の風情を醸し出しています。鉄橋をわたる列車の音だけが物静かに響わたっています。これも作者のひとつの表現方法かも知れません。またいつか大雪が降り大シケになると訪れてみたいと作者の思いが込められていました。

4. 壬生の花田植

紙本 勝 12分30秒

広島県郡北広島町壬生で、毎年6月の田植えの時期に豊作を願って行われる江戸時代から伝わる伝統行事を取材された作品です。重要無形民族文化財およびユネスコの文化遺産に指定されています。水田で花鞍を載せた飾り牛が代かきした後、大太鼓、小太鼓、笛などによる「囃し」や田植え歌に合わせて華やかな衣装に身を包んだ早乙女が苗を植えるシーンが画面いっぱい映し出され、民族音楽の響きにのせて作品を盛り上げます。作者には、歴史や文化、伝統行事をみつければ全国津々浦々の撮影行

には脱帽します。

5. 祈りの滝

森口 吉正 9分45秒

名水の地を訪ねて作品を作られている作者。この滝は、岡山県鏡野町上斎原中津河にある岩井滝を訪ねられた作品です。この滝は、名水百選のひとつに指定されており、この水を21日間飲み続け7月10日に念願の子宝に恵まれた伝説があり、毎年この日に岩井滝まつりが行われています。健康や子宝を祈願する多くの観光客の祈りの中、山伏による護魔炊きの煙りが新緑に映えます。岩の上から落ちる滝の奥にはお不動産があり裏から見る滝のカーテンをとうして見える護魔供養の様子が作品を盛り上げます。作者の心地よいナレーションにのせて、名水、新緑、祈りが一時の癒しを感じさせていただきました。

6. 水無月花暦

高瀬 辰雄 7分45秒

京都の善峰寺(よしみねでら)の紫陽花、勧修寺のしょうぶ、梅宮大社では蓮、キキョウの花で知られる東福寺天得院、この4ヶ寺の花めぐりを撮られました。6月の雨に花がよく似合います。勧修寺では着物姿の傘をさしたひとりの女性が映りますが、どこかの撮影会か、いやたまたまおられたとか、ラッキーでしたね。タイトルが「花暦」では四季をイメージするので「花めぐり」か「花の詩」でも良かったかもね。

7. 蓮の花

進藤 信雄 6分55秒

この作品も前者の作品とおなじように花めぐりですが、花は「蓮」にしばらくまりました。大阪・吹田の万博公園、兵庫・朝来の与布土、兵庫・豊岡の野上ビオトープ、奈良・岩船寺を訪ねられました。蓮の花ことばについて語られています。神聖、沈着、休養、雄弁や遠くへ離れゆく愛だとかあるようだ。お釈迦様の台座の花が蓮であるのは、泥水が濃ければ濃いほど大輪の花が咲かせるという意味があるらしい。まさに人生の中で大輪の花を咲かせていきたいものですね。

8. 荒牧のバラ公園

吉岡 貞夫 8分45秒

兵庫県伊丹市荒牧にある「バラ公園」を訪ねられた作品です。世界のバラ約250種1万本が広さ1.7ヘクタールのおしゃれな園内一体に咲き誇っています。世界的に有名な「天津乙女」や「マダム・ヴィオレ」のバラの花がナレーションで紹介されています。公園の西側に接する河川堤防を利用して高低差10メートルの立体的な地形を生かして整備されて、アンティークなレンガ造りの植え込みや3本の赤い烈柱、白壁の建物など南欧風の風情を醸し出しています。赤やピンクなどの色とりどりのバラがアップやミディアムに映し出されてきれいな画面に構成されました。5月、6月見ごろだそう一度訪れてみたいところです。

9. 首都プレトリア

華岡 汪 5分51秒

南アフリカ共和国の首都、プレトリアを訪ねられた作品です。街の紹介から始まります。プレトリアは計画的に造られ、街並みは碁盤の目になっていて7万本をこえる街路樹が植えられているようで、藤色の満開の花を咲かせた樹が美しい。バスの窓からの映像で市内を紹介されています。トランスバール博物館、チャーチ広場、連邦議会議事堂、行政府のあるユニオンビルなどが映し出されています。異動中のバスのガイドさんの声がききとりにくいので消されてナレーションされた方がいいかもしれません。

10. ミャンマー紀行

山本 正夢 10分00秒

最初の有村作品と同じ旅行された時の作品です。市内を克明に撮影されました。異動中の車の荷台に同行者の面々も登場します。BGMとテロップで構成されていますがたのしく拝見させていただきました。4名の楽しい海外ツアーお疲れ様でした。

11. 滅び行くもの

関 剛 8分45秒

この作品は今年の「信楽焼き」撮影会のコンテストで最優秀賞になられたもので別欄で紹介されていますので記事は省きます。